

# 大分市文化・芸術に関するアンケート調査報告書 概要版

大分市では、文化・芸術に対する関心度やニーズ等を把握し、今後の文化・芸術施策等を検討するための基礎資料とすることを目的として、「市民アンケート」、「団体アンケート」、「学生アンケート」を実施しました。

## 市民アンケート

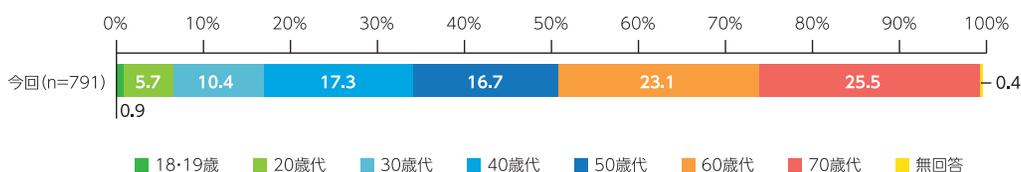
### 1 調査の概要及び回答者の属性

#### ■ 調査の概要

対象者と抽出方法	住民基本台帳に記載された、大分市に居住する18歳以上の市民3,000人を無作為に選ばせていただきました。	
調査方法	郵送調査法	
調査時期	令和元年12月2日～12月27日	
配布・回収状況	配布数 3,000 回収率 26.6%	回収数 791 ※回収率 回収数 ÷ (配布数 - 不明戻数)

#### ■ 回答者の属性

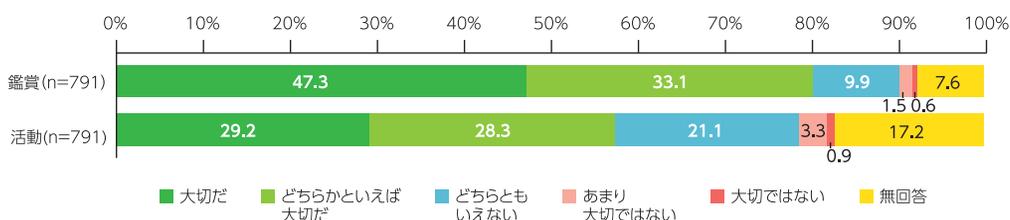
##### 《年齢》



### 2 文化・芸術の鑑賞、活動について

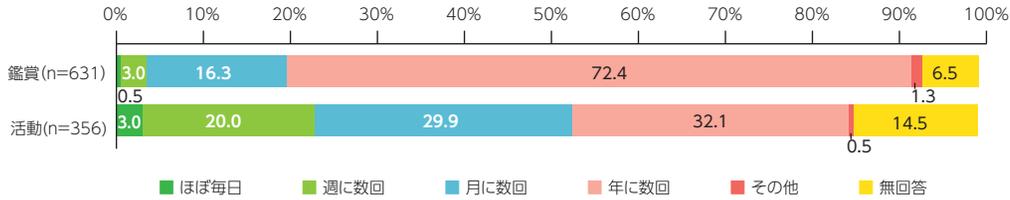
#### ■ 鑑賞、活動の大切さ

大切だとする割合は、鑑賞では80.4%ですが、活動では57.5%と、鑑賞に比べると22.9ポイント少なくなっています。



## ■ 鑑賞、活動の頻度

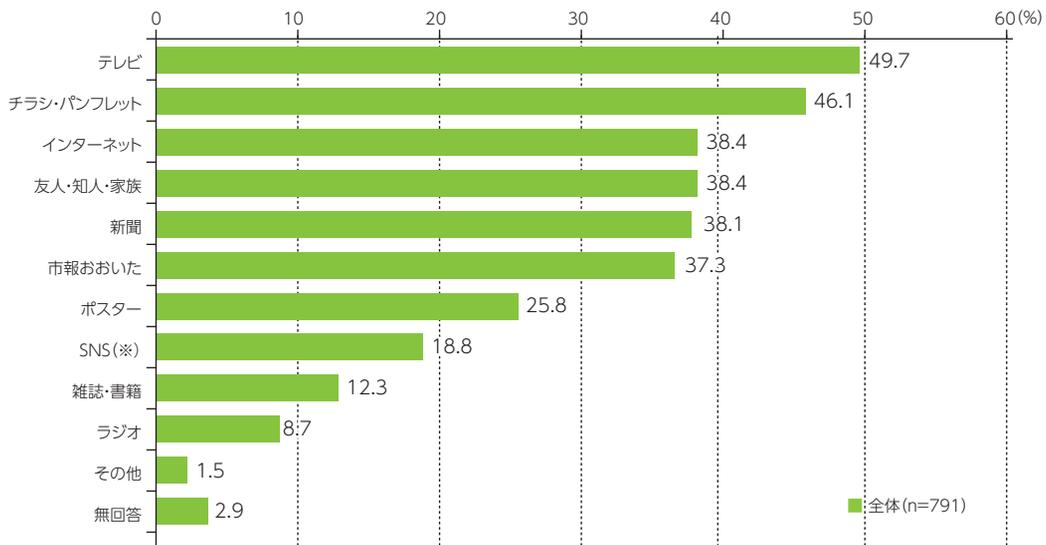
鑑賞の頻度としては、「年に数回」(72.4%)が圧倒的に多くなっていますが、活動では、週に1回以上が約4人に1人(「ほぼ毎日」3.0%+「週に数回」20.0%)おり、これに、「月に数回」(29.9%)を加えた月1回以上活動している割合は52.9%と半数を超えています。



## 3 文化・芸術に関する情報について

文化・芸術に関する情報の入手先としては、「テレビ」と「チラシ・パンフレット」が40%で多く、「インターネット」、「友人・知人・家族」、「新聞」、「市報おおいた」が37~38%で並んでいます。

年齢別にみると、40歳代以下では「インターネット」が60%を超えて、トップの入手媒体となっています。また、「SNS」は20歳代以下では51.9%と半数を超え、30歳代で47.6%、40歳代で33.6%と多くなっています。60歳代、70歳代では「新聞」が50%を超え、最も多くなっています。



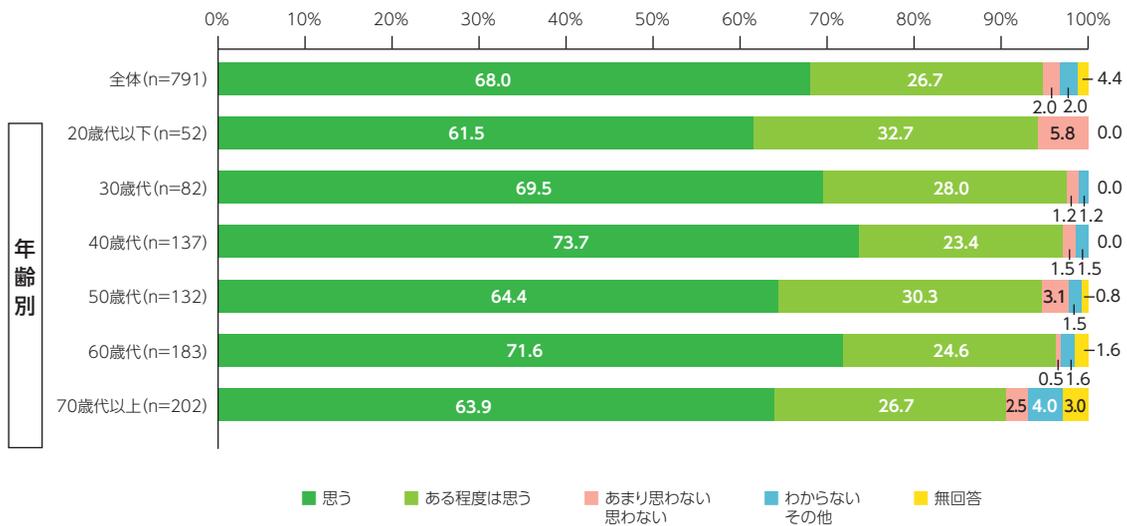
	サンプル数	テレビ	チラシ・パンフレット	インターネット	友人・知人・家族	新聞	市報おおいた	ポスター	SNS(*)	雑誌・書籍	ラジオ	その他	無回答	
全体	791	49.7	46.1	38.4	38.4	38.1	37.3	25.8	18.8	12.3	8.7	1.5	2.9	
年齢別	20歳代以下	52	28.8	32.7	61.5	34.6	9.6	13.5	38.5	51.9	11.5	1.9	1.9	—
	30歳代	82	62.2	62.2	63.4	40.2	9.8	42.7	37.8	47.6	18.3	2.4	1.2	1.2
	40歳代	137	44.5	50.4	60.6	39.4	16.1	33.6	29.9	33.6	10.9	10.9	0.7	1.5
	50歳代	132	56.8	47.0	49.2	37.1	37.9	30.3	22.0	16.7	14.4	9.8	3.8	2.3
	60歳代	183	51.9	50.8	27.3	36.6	54.6	41.0	21.9	7.1	13.1	12.6	0.5	0.5
	70歳代以上	202	46.5	36.1	10.4	40.1	57.4	44.6	21.3	1.0	8.9	6.9	1.5	7.9

※SNS(フェイスブック、ツイッター、ライン、インスタグラムなど)

(注) 太字 全体より5ポイント以上多いもの(「無回答」は除く)

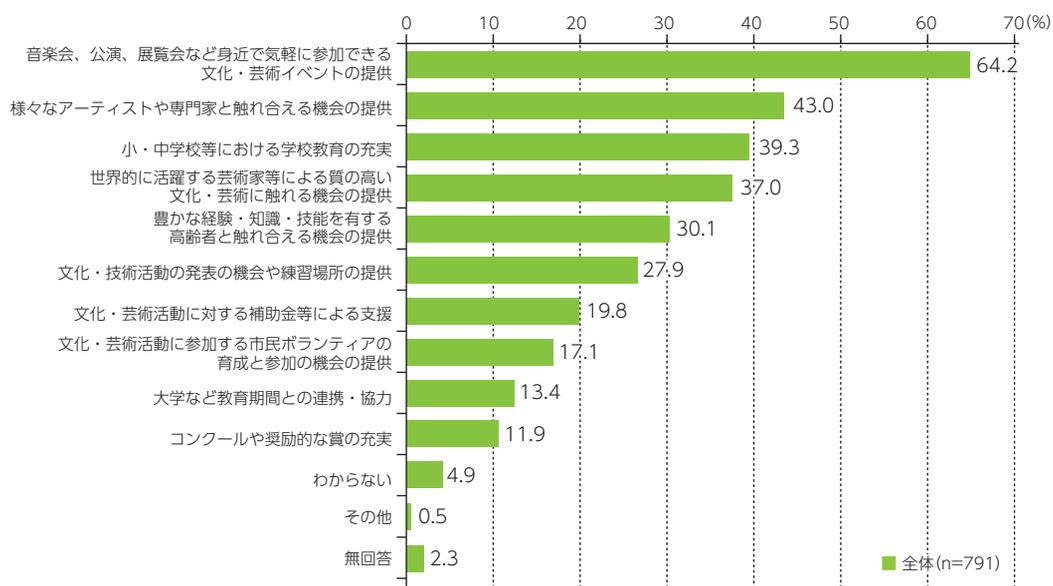
## 4 子どものころから文化・芸術に触れる機会の必要性

子どものころからの文化・芸術に触れる機会の必要性については、「思う」が68.0%と圧倒的に多く、これに「ある程度思う」(26.7%)を加えると、94.7%が必要と思っています。年齢別にみると、40歳代、60歳代で「思う」が70%を超えています。



## 5 次世代の文化・芸術の担い手の育成や支援に必要なこと

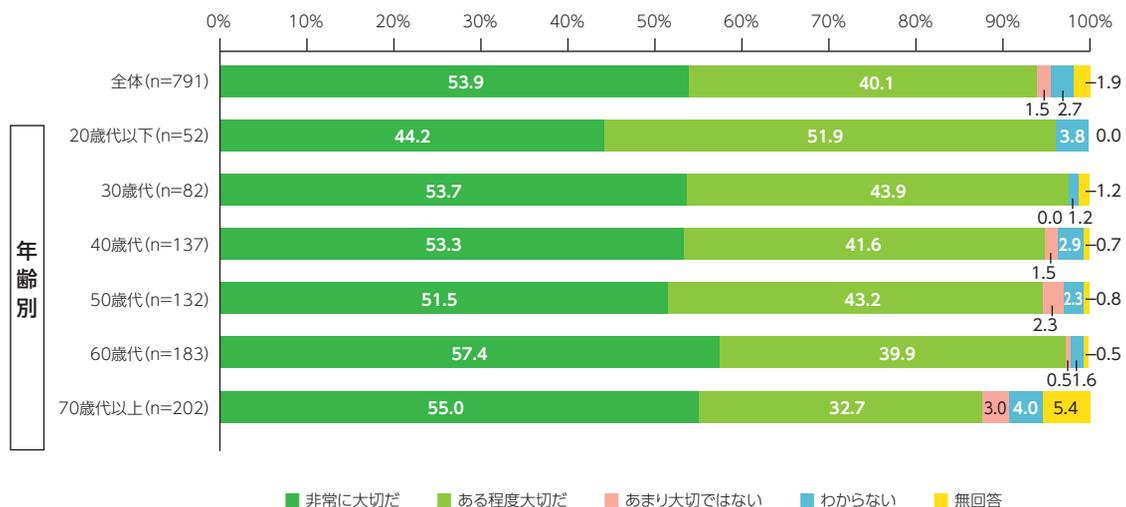
子どもに限らない、次世代の文化・芸術の担い手の育成や支援としては、「音楽会、公演、展覧会など身近で気軽に参加できる文化・芸術イベントの提供」が特に多くなっています。



## 6 文化財や歴史的な価値のあるもの（歴史的遺産）について

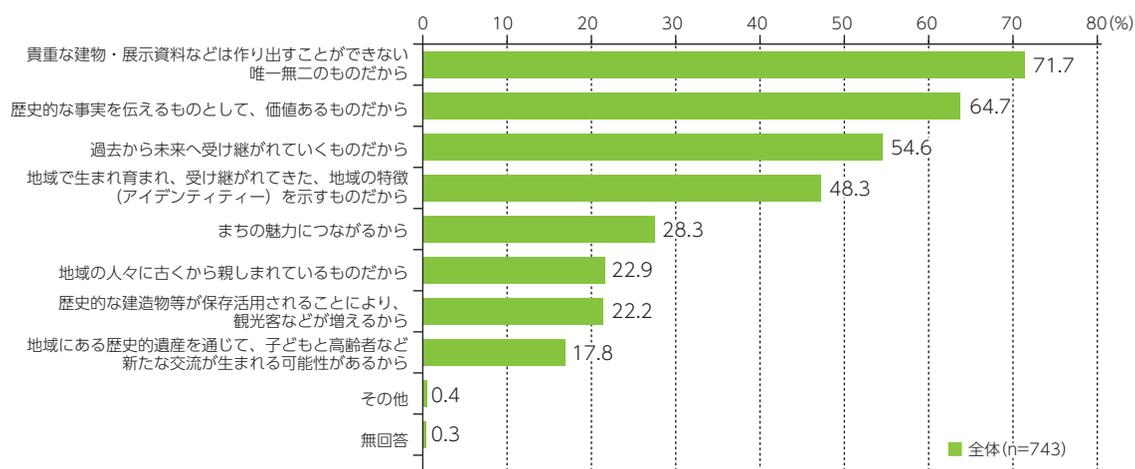
### ■ 保存・活用していく取組みへの大切さ

文化財や歴史的な価値のあるもの（歴史的遺産）を保存して、活用していく取組みについては、「非常に大切だ」が53.9%、「ある程度大切だ」が40.1%、合計すると94.0%が大切であると思っています。



### ■ 保存・活用することが大切だと思う理由

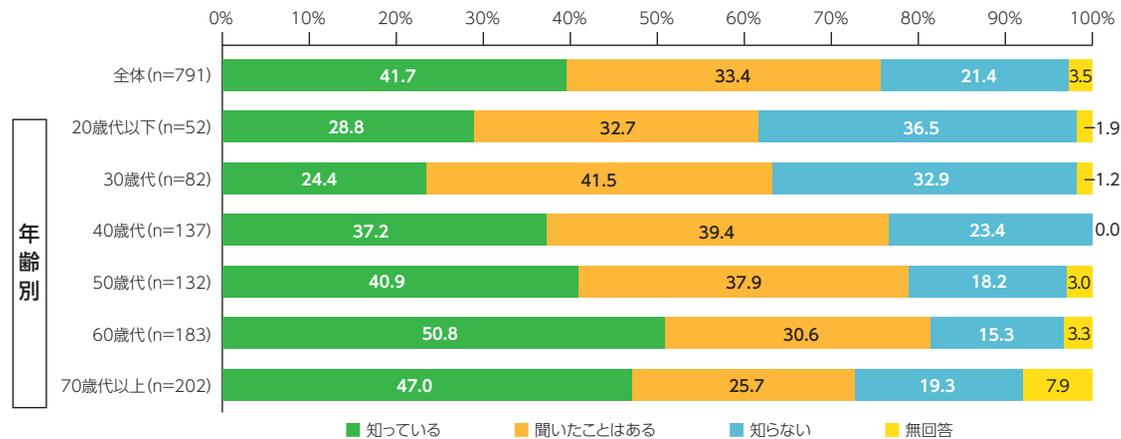
文化財や歴史的な価値のあるもの（歴史的遺産）を保存・活用することが大切だと思う理由としては、「貴重な建物・展示資料などは作り出すことができない唯一無二のものだから」が最も多く、次いで「歴史的な事実を伝えるものとして、価値あるものだから」、「過去から未来へ受け継がれていくものだから」となっています。



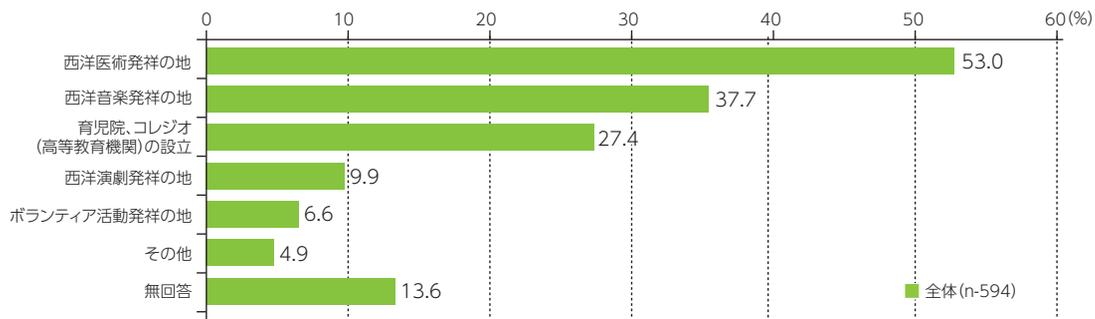


## ■ 大分市が日本における南蛮文化発祥の地であることの認知度

大分市が日本における南蛮文化発祥の地であることについては、「知っている」が41.7%、「聞いたことはある」が33.4%、合計すると知っている割合（認知率）は75.1%となっています。年齢別にみると、認知率は、20歳代以下で61.5%と最も少なく、30歳代で65.9%、40歳代で76.6%、50歳代で78.8%、60歳代で81.4%と、年齢が高くなるほど多くなり、70歳以上では72.7%となっています。

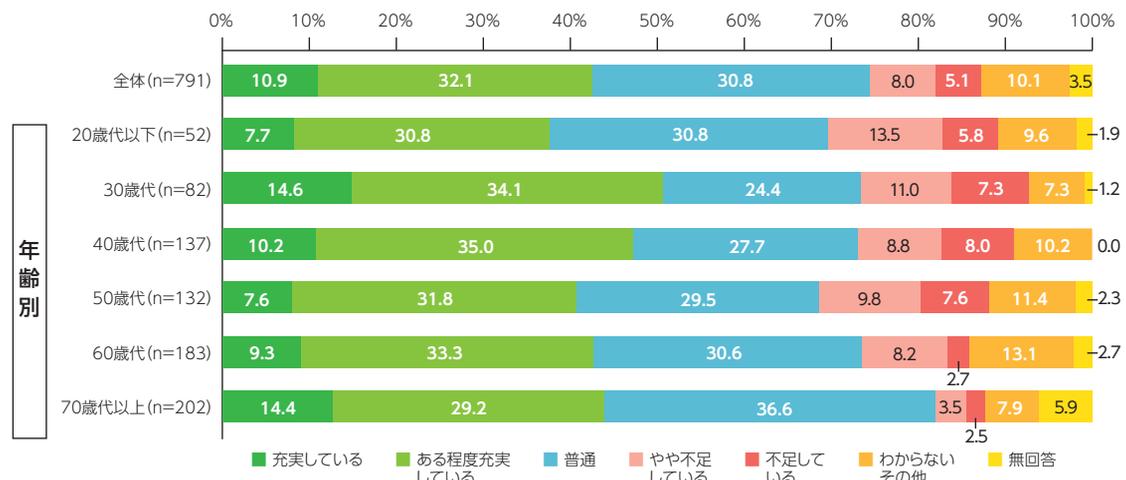


大分市が日本における南蛮文化発祥の地であることに関して、聞いたことがあるものとしては、「西洋美術発祥の地」をはじめとして、「西洋音楽発祥の地」、「育児院、コレジオ（高等教育機関）の設立」などが多くなっています。



## ■ 文化施設の充実状況

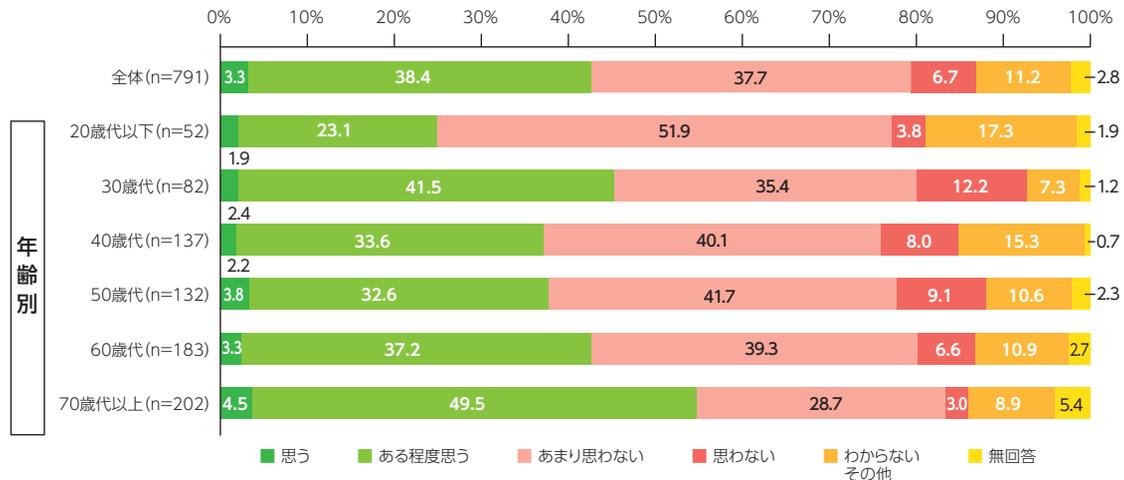
大分市内の文化施設（公設、民間問わず）は充実していると思うかどうかをみると、「充実している」が10.9%、「ある程度充実している」が32.1%、合計すると、充実していると思っている割合は43.0%となっています。



## ■ 文化・芸術が盛んなまちという意識

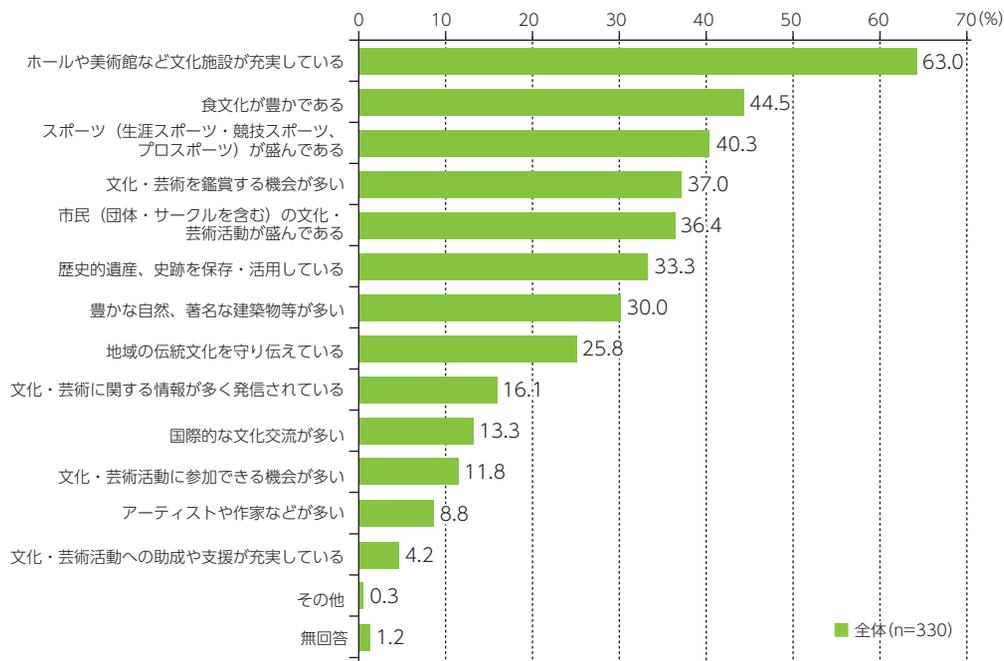
大分市が文化・芸術が盛んなまちと思っているかどうかをみると、「思う」が3.3%、「ある程度思う」が38.4%、合計すると思う割合は41.7%となっています。

一方、思わない割合は44.4%（「あまり思わない」37.7%+「思わない」6.7%）となっており、思う割合より2.7ポイント多くなっています。



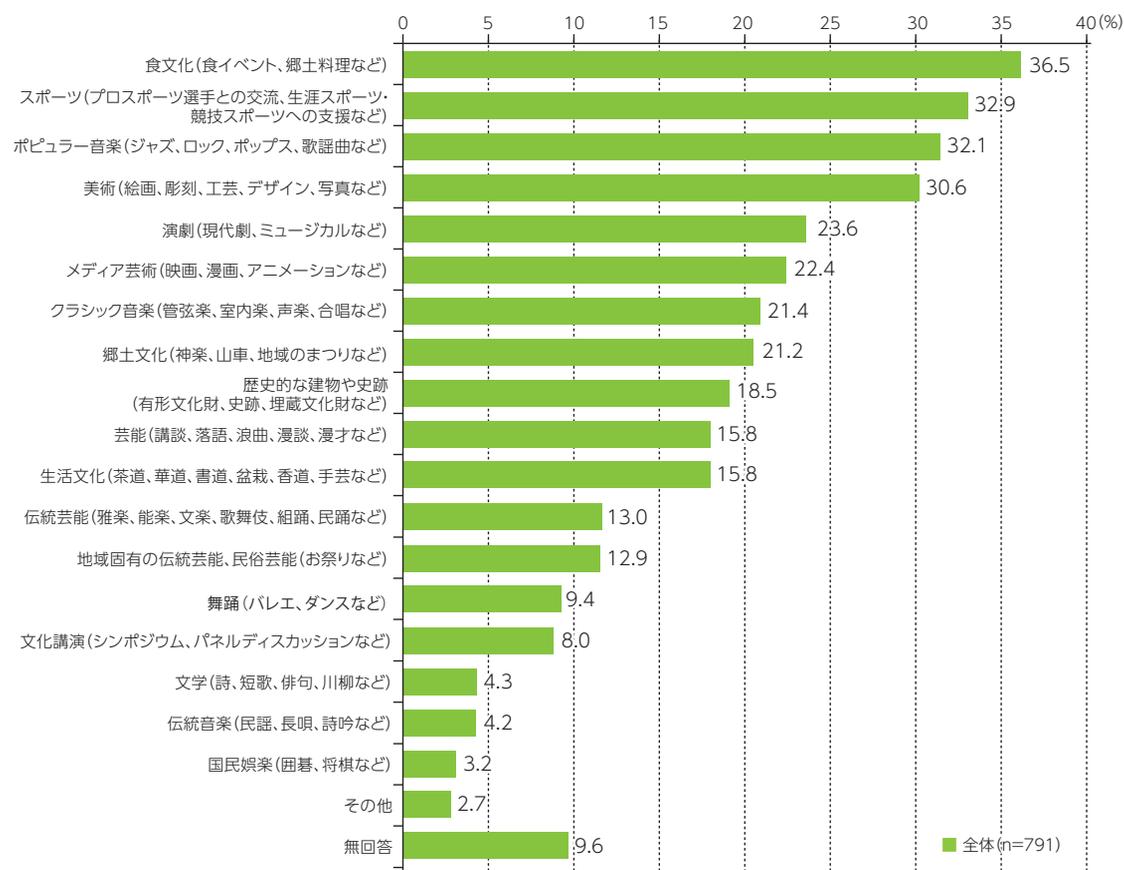
## ■ 文化・芸術が盛んなまちであると感じるところ

大分市の文化・芸術が盛んなまちであると感じるところとしては、「ホールや美術館など文化施設が充実している」が最も多くなっています。



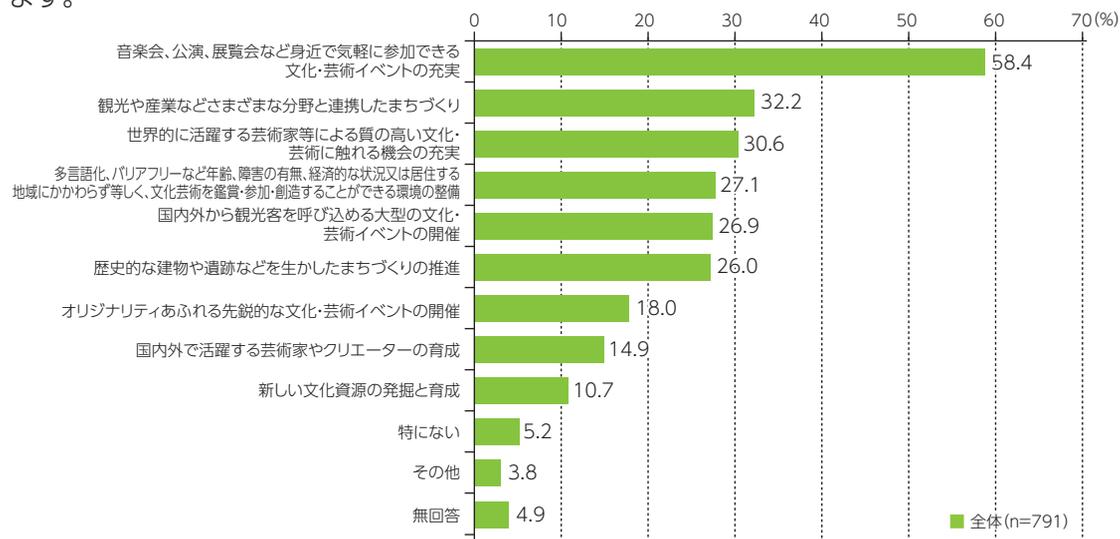
## ■ 文化・芸術施策で充実させてほしい分野

大分市の文化・芸術施策で充実させてほしい分野としては、「食文化（食イベント、郷土料理など）」をはじめとして、「スポーツ（プロスポーツ選手との交流、生涯スポーツ・競技スポーツへの支援など）」、「ポピュラー音楽（ジャズ、ロック、ポップス、歌謡曲など）」、「美術（絵画、彫刻、工芸、デザイン、写真など）」が多くあげられています。



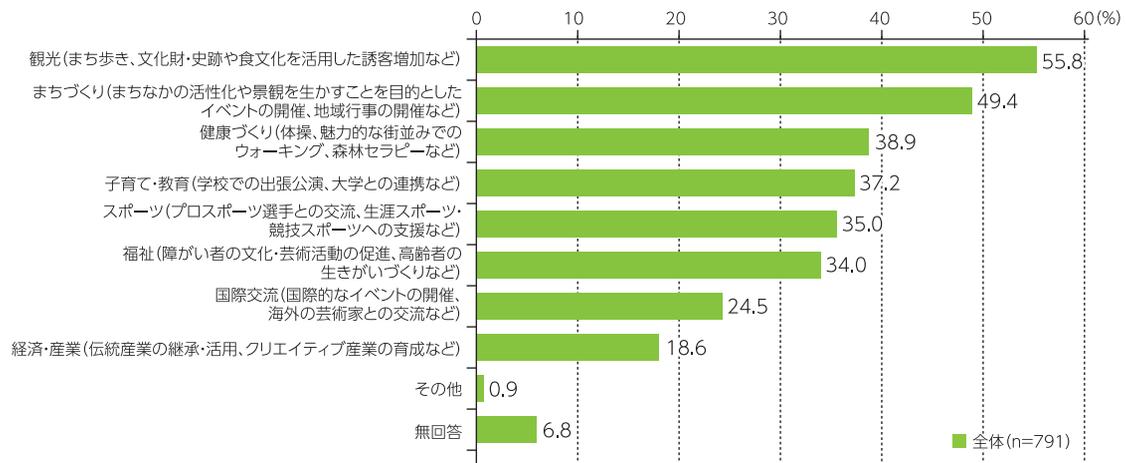
## ■ 文化・芸術がもっと盛んになるために行うべきこと

市民の文化・芸術がもっと盛んになるために行うべきこととしては、「音楽会、公演、展覧会など身近で気軽に参加できる文化・芸術イベントの充実」が半数を超え最も多くなっています。



## ■ 文化・芸術を活かした方が良いと感じる分野

文化・芸術を活かした方が良いと感じる分野としては、「観光（まち歩き、文化財・史跡や食文化を活用した誘客増加など）」が最も多く、次いで「まちづくり（まちなかの活性化や景観を生かすことを目的としたイベントの開催、地域行事の開催など）」となっています。



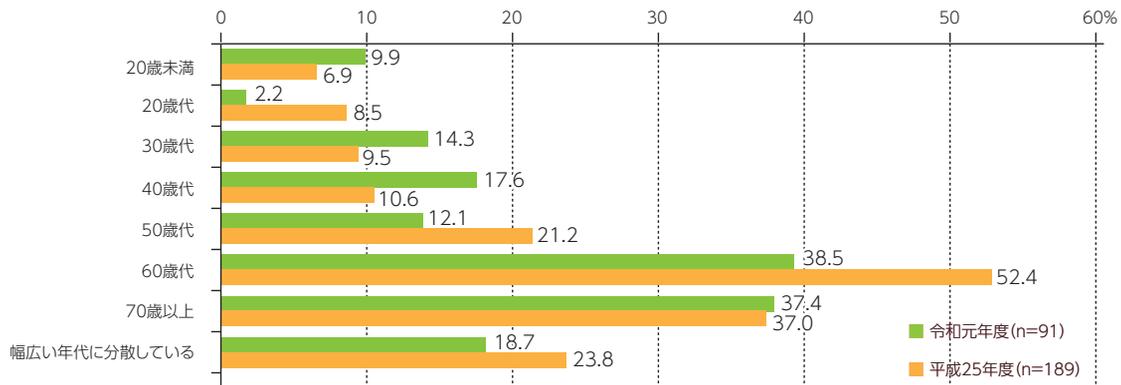
## 団体アンケート

### 1 調査の概要

対象者	①NPO法人 大分県芸術文化振興会議会員（大分県文化年鑑平成30年度）の内、大分市を主な活動の拠点とする125団体 ②文化施設（J:COM ホルトホール大分、コンパルホール、平和市民公園能楽堂、アートプラザ）の利用団体 ③地区公民館（中央公民館を除く12館）の利用団体
調査方法	郵送調査法及び窓口配布
調査時期	令和元年12月2日～12月27日
配布・回収状況	配布数 245      回収数 91 回収率 41.6%    ※回収率 回収数÷（配布数－不明戻数）

### 2 構成メンバーのうち多い年代

団体の構成メンバーの年齢構成をみると、平成25年度調査、今回の調査ともに「60歳代」が最も多く、次いで「70歳代以上」となっています。



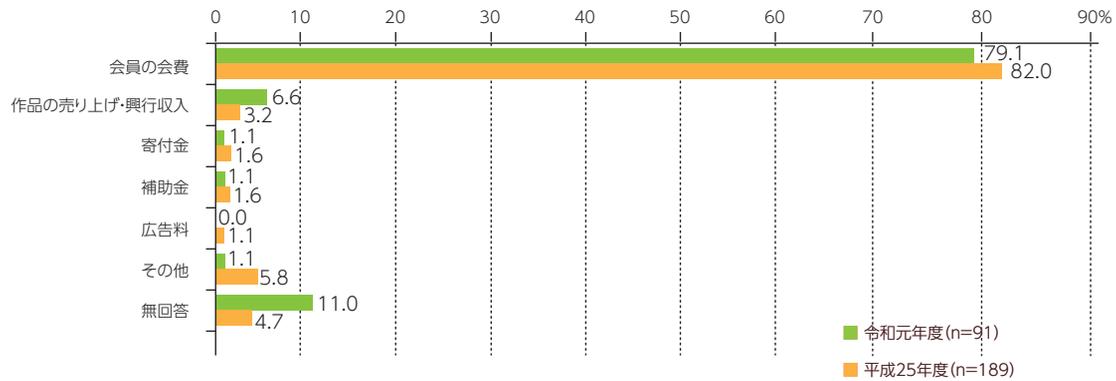
### 3 活動成果を発表する機会

活動の成果を市民等へ発表する機会としては、平成25年度調査の時よりも「0回」が減り、あとは軒並み増えています。



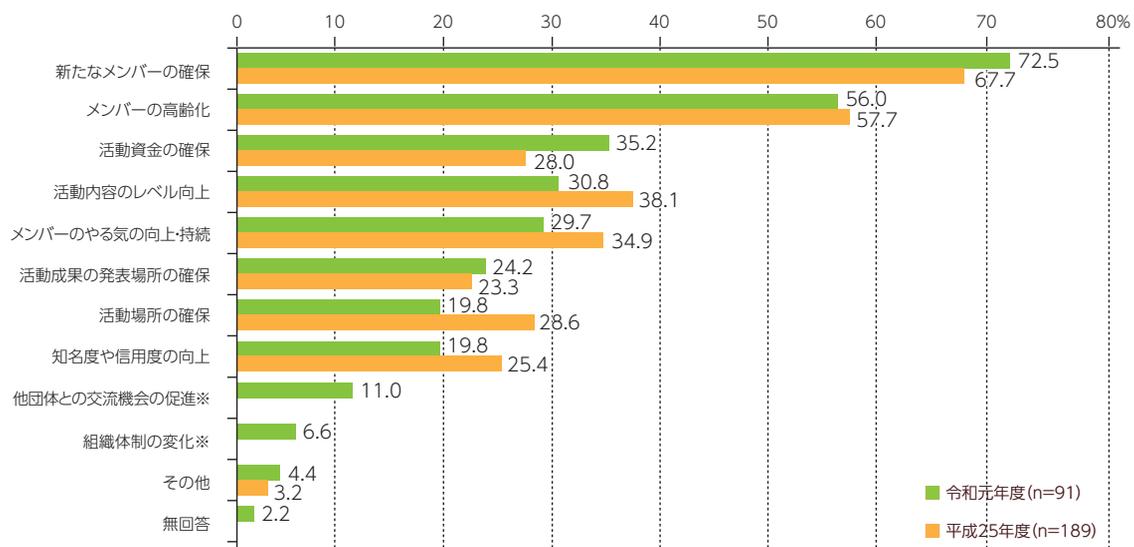
## 4 活動費の原資

団体の活動の原資としては、平成25年度調査、今回調査ともに「会員の会費」が最も多くなっています。



## 5 活動を行うにあたっての課題

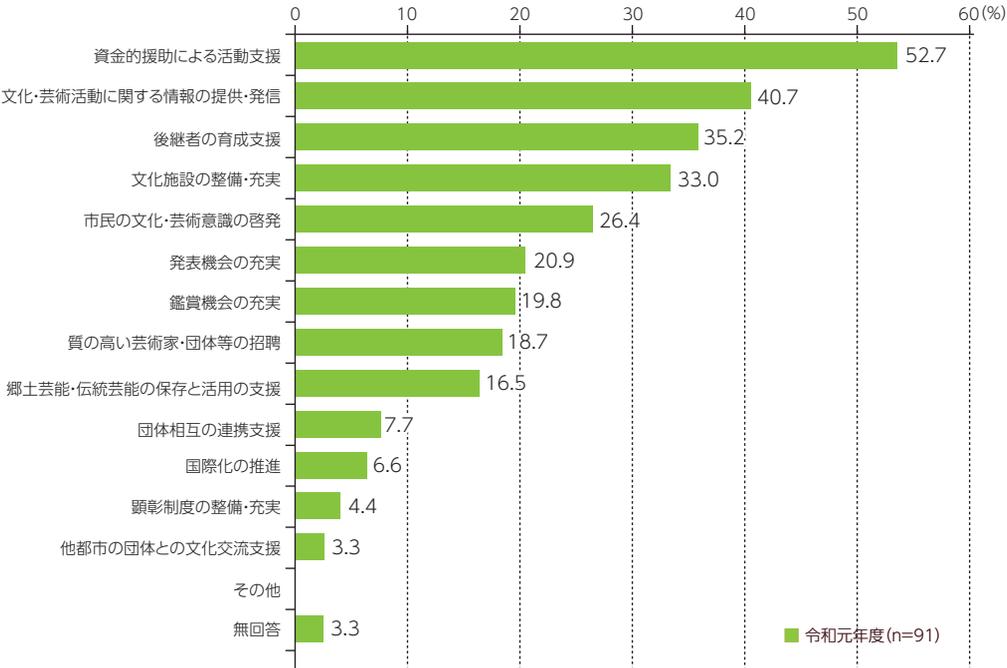
活動するにあたっての課題としては、平成25年度調査、今回の調査ともに「新たなメンバーの確保」が最も多く、次いで「メンバーの高齢化」となっています。



(注) ※印の選択肢は平成25年調査では提示していない。

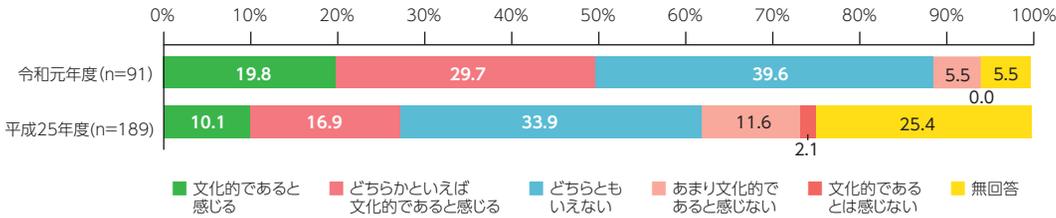
## 6 団体活動の活発化のために行政や民間が行う必要があるもの

団体活動の活発化のために行政や民間が行う必要があるものとしては、資金援助が最も多く、次いで情報の提供・発信、後継者の育成支援、文化施設の整備・充実となっています。



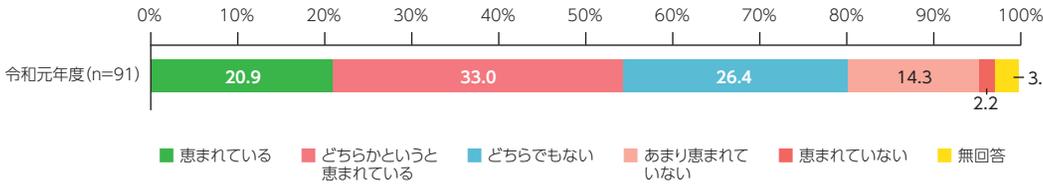
## 7 大分市が「文化的なまち」であるという意識

大分市が文化的なまちであるという意識は、平成25年度調査より大幅に増えています。



## 8 大分市の文化・芸術の発表の機会

文化・芸術の発表の機会に恵まれているという意識が半数を超えています。



## 学生アンケート

### 1 調査の概要

	一般学生	専門学校	留学生
対象者	国立大学法人 大分大学(経済学部)	公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学(美術科・音楽科)	①国立大学法人 大分大学 ②学校法人文理学園 日本文理大学 ③公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学
調査方法	大学へ持ち込み配布	大学へ持ち込み配布	大学へ持ち込み配布 (インターネット申請併用)
調査時期	令和元年11月	令和元年11月～12月	令和元年11月～12月
配布・回収状況	配布数 244 回収数 139 回収率 57.0%	配布数 460 回収数 295 回収率 64.1%	配布数 143 回収数 138 回収率 96.5%

### 2 希望する進路

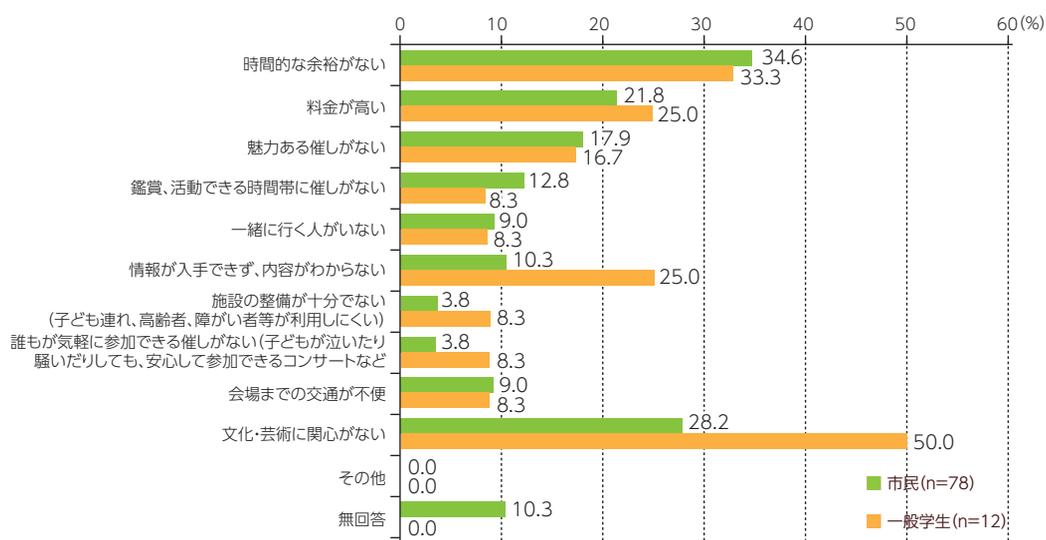
専門学生の今後の進路としては、大分市内よりも市外で就職や進学を希望する学生が多くなっています。



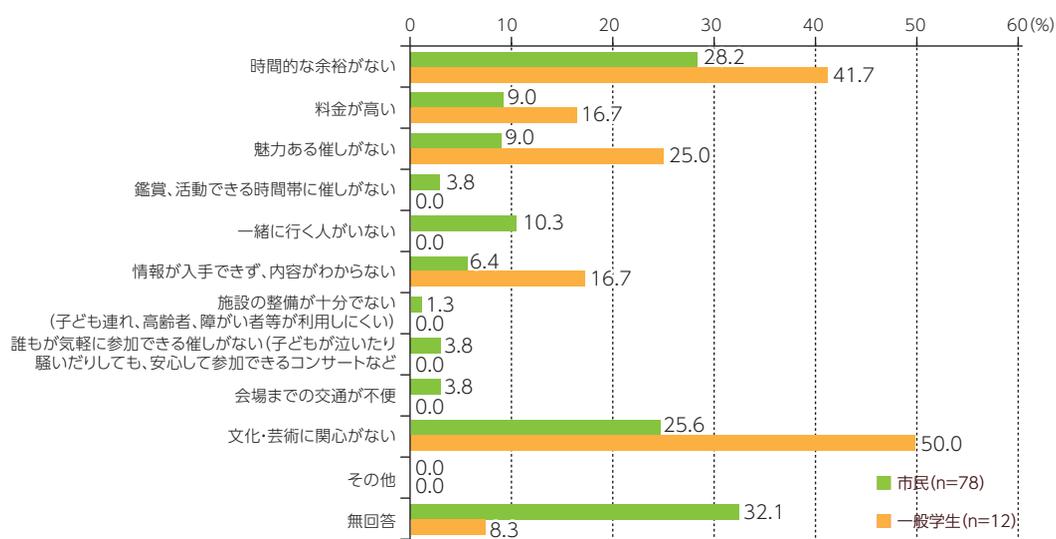
### 3 鑑賞も活動もしない理由

鑑賞も活動もしない理由としては、一般学生では、観賞、活動ともに、「文化・芸術に関心がない」が最も多く、市民アンケートとは異なる傾向を示しています。

#### 《 鑑賞 》

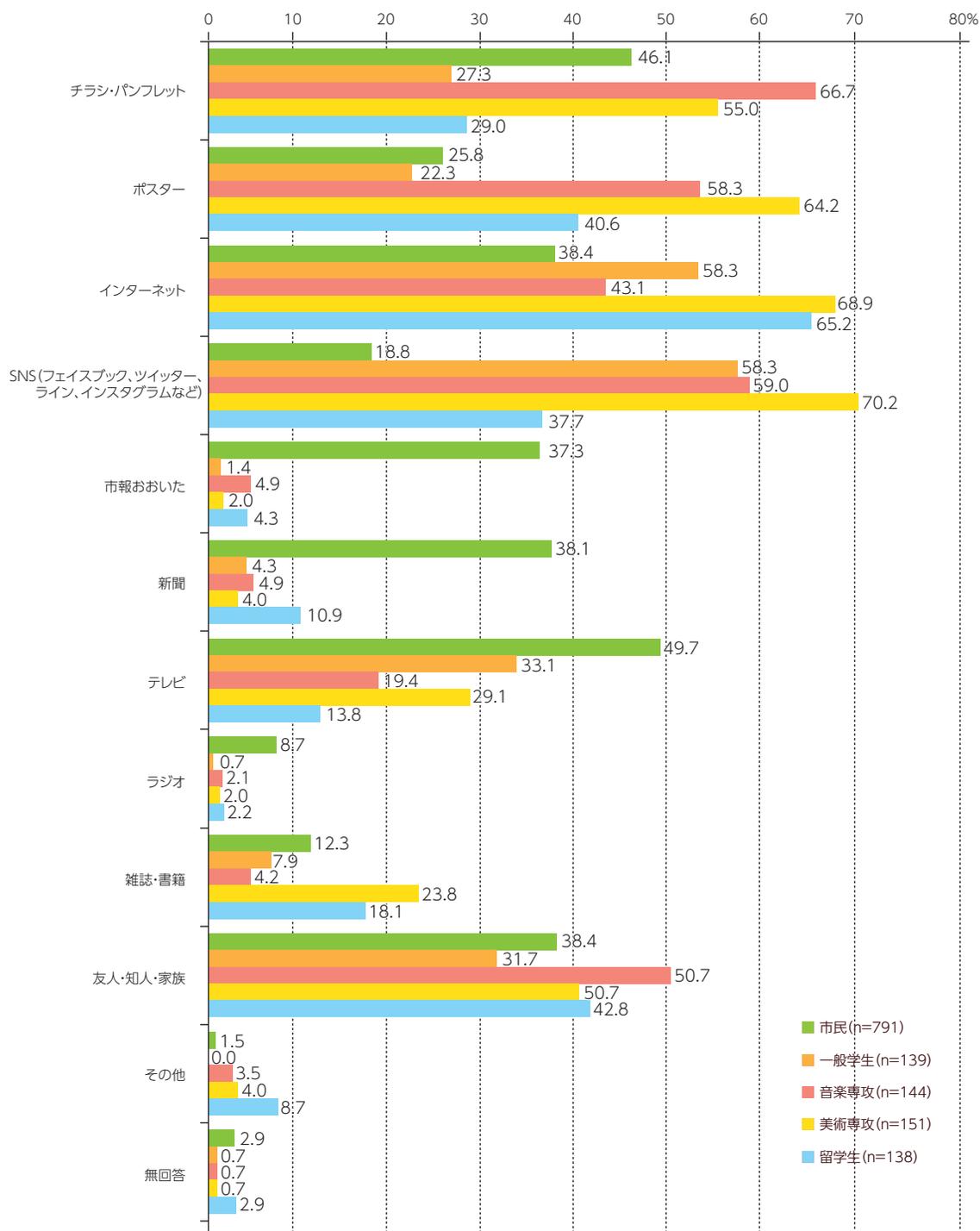


#### 《 活動 》



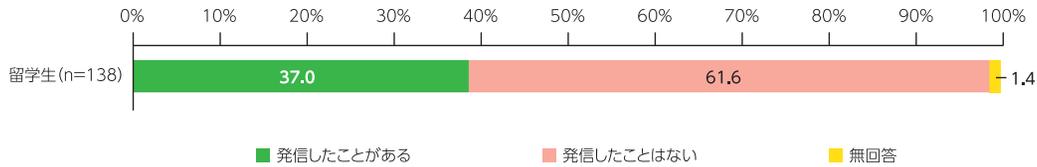
## 4 文化・芸術に関する情報について

文化・芸術に関する情報の入手方法は、市民アンケートでは「テレビ」と「チラシ・パンフレット」が多くなっていますが、一般学生や専門学生（美術・音楽）、留学生では、「SNS（フェイスブック、ツイッター、ライン、インスタグラムなど）」や「インターネット」が多くなっています。



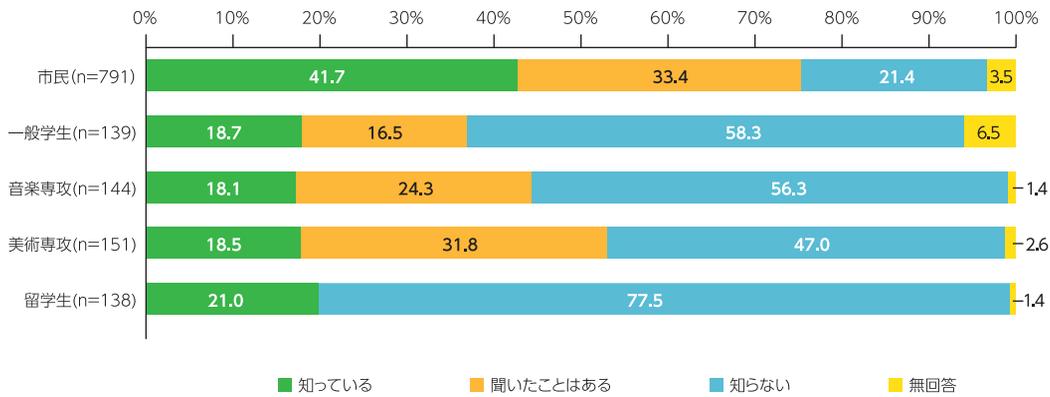
## 5 大分市の祭りや観光名所、景観、建築物などをSNS（フェイスブック、ツイッター、ライン、インスタグラムなど）で発信

約3人に1人強の留学生が、SNSで大分市に関する情報を発信した経験を持っています。



## 6 大分市が日本における南蛮文化発祥の地であることの認知度

大分市が日本における南蛮文化発祥の地であることについては、市民では知っている人が4割強いますが、学生や留学生では2割前後にとどまっています。



(注) 留学生には「聞いたことはある」とい選択肢は提示していない。

**発行者** 大分市企画部文化国際課 (令和2年度～文化振興課)

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号

TEL : 097-537-5663 FAX : 097-536-4044